



失敗は成功のもと

校長

【一生懸命やらない失敗は100回やってもうまくいかない】

10年前に、学校で子どもたちが1人1台のタブレット端末を使用することを想像していた人は、世の中にどのくらいいたでしょうか。そもそも、1970年代、8ビットのパーソナルコンピュータが出現してから、2010年代にタブレット端末への移行が始まり、急速に進化してきたのです。

スティーブ・ジョブズ(1955～2011年)は、時代を変えた大ヒット商品を数々生み出してきました。しかし、ジョブズは、様々な大ヒット商品を自分で作り出したわけではありません。作っている人に「もっとこうしたほうがいい」とアドバイスをしていただけだそうです。しかも、それらの商品は、特に新しかったわけではなく、すでに似たような商品がいくつも出ていました。それなのに、ジョブズが関わるとたちまち世界的ヒット商品になっていきました。その秘密は彼の強いこだわりだと言います。とことん使いやすさとデザインを追求していきました。自分が気に入った形になるまで何度も何度も作り直させたそうです。このこだわりぬいた商品は、世界中で大ヒットし、現在、誰もがスマートフォンやタブレット端末を手にする時代になったのです。

では、なぜ、「失敗は成功のもと」なのでしょう。ジョブズはあまりの強いこだわりのせいで、自分で作った会社を追い出されることになってしまいました。彼はもちろん、会社の中で一番偉い人でしたが、経営者全員から追い出されてしまったのです。彼にとってみれば、人生最大の失敗だったことでしょう。しかし、彼は、新たにパソコンの会社を作り、アニメーションの会社を買取りました。このアニメーションの会社がアニメ作りに革命を起こすほどの会社になりました。これにより、再び復活、つまり成功したのです。

もう一つの例です。世界が認めるレスリングの吉田沙保里さんは、2012年のロンドン大会までオリンピックで3連覇しました。世界選手権は前人未到の13連覇を達成し「絶対女王」「霊長類最強」と称えられた人物です。小さい時から父にたたき込まれたタックルを信じて、ずっとそのタックルで相手を倒してきました。しかし、2016年リオ五輪決勝、日本選手団主将として負けられないと臨んだ一戦で彼女は負けてしまいました。

その吉田沙保里さんの有名な言葉です。

「初めて2番目の表彰台に上がった時に、負けた人はこういう気持ちだったのだなということを感じました。こうやって戦う仲間がいたから頑張ってこられたと負けて知ることができました。リオの銀メダルが私を成長させてくれました。」

まさに、失敗があつて吉田さんは大きく成長したと言えます。

これら2つの話に共通している点は、一生懸命やっている失敗は、成功への道につながるということです。一方で、一生懸命やらない失敗は100回やってもうまくいきません。

さて、大久保小学校の児童の皆さんには、5月29日(土)の運動会に向けて、目標を立ててほしいと思います。そして、その目標を達成するために一生懸命に取り組んでください。運動が不得意な人も得意な人も失敗を恐れずに、目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

運動会の内容は、昨年同様午前中の開催で2ブロック制となります。感染状況にもよりますが、今年度は保護者2名までの参観を可とし、ビデオ・写真撮影を許可する形で実施する予定です。保護者の皆様の御理解と御協力をいただきながら、コロナ禍でも安全な運動会になるように準備してまいります。